

Topに  
聞

日常、当たり前のように使っているハンガーだが、商品価値を高めるためには欠かせないアイテム。そのハンガーの技術を生かして、独自の販売ルート確立や新たな市場への参入、海外市場での安定した取り組みなど、これまでとは違った仕組みや機能に挑戦するメーカーが出てきている。

(木村英喜)

■ 当社はハンガーの製造御として50年以上が経過しました。現在はハンガーとフック、パッケージを主力商品として国内のインナーアパレルや子供服、ソックス関連企業などの取り組み

### 中央パッケージング工業社長 菅野充基氏



を進めています。日本国内にブラステックハンガーやフックの製造拠点をもち、軽くて壊れにくい商品設計、アパレル製品のアイテムに合わせて最も効果的に見えるデザインなどを自社で行ってきました。デザイン、機能を企画提案できるメーカーとして支持されてきました。

15年前には中国に現地法人を設立しました。協力工場で日本品質を実現し、生産体制を確立したこともあって、国内のインナーアパレルやSPA（製造小売業）との

## 異業種、海外にも挑戦

取り組みが進み、この数年国内アパレルが苦戦している中でも業績は安定しています。

バン格拉デシユでの生産、フォロも4年前から始めました。国内の子供服メーカーなどの取り組みが予想以上に広がっており、今年5月に現地法人を設立しました。協力工場の体制も拡大し、ハンガーやパッケージではインナーアパレルなどの取り組みも視野に入れて、まもなく本格稼働します。バン格拉デシユ周辺国にもらんだフォロ体制を強化していくつもりです。

■ バン格拉デシユに先立って今年3月にはタイに現地法人を設立しました。協力工場での開発・生産体制を整え、パッケージを主力として扱います。ここではアパレルではなく、食品分野などを視野に入れて新たな挑戦を始めています。日本よりもタイや

中国、米国など海外市場を視野に入れた事業を進める計画です。パッケージでもデザインに合わせた設計で、安定して生産・供給するには確かな技術が必要です。長年蓄積してきたノウハウが海外でも評価されています。

また、長年樹脂の成型メーカーとして蓄積してきた技術を生かして、ハンガーやパッケージとは異なる市場に向けた商品開発、販売も開始しています。屋上緑化関係や農業用資材など異業種への提案が着実に実を結びつつあり、新たな事業の柱に成長する手応えを得ています。ハンガーやフックなどで培った技術やノウハウがまったく違った市場にも生かせることが実証されつつあります。

今後主力のハンガーやフック、パッケージでの開発や企画・デザインを追求し続けることが新しい事業にも生かされ、相乗効果が発揮できるものと思っています。海外や新たな事業をにらんだ人材の育成にも力を注ぎます。

### 蓄積した技術生かす